

## 第5回 『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

### ・ 終わりがわかることの大切さ

前回は、物理的な構造化について話をしました。今回は終わりを伝えるための方法です。

知的障がいや自閉症のある人たちにどのようにして終わりを伝えていますか。「あともう少しで終わりです」、「あとちょっとです」などと言葉で言って伝えることが多いのではないかと思いますがいかがでしょう。しかし、「あともう少し」とか「あとちょっと」ということは、知的障がいや自閉症のある子どもたちにうまく伝わっているのでしょうか？

知的障がいや自閉症のある子どもに対して、「あとちょっと待ってね」と言っても、待つことができない子どもがいます。そんなときに、「あと少し待ってと言っているでしょ」、「わかった、わかったもう少しだから」と繰り返し言っているのではないのでしょうか。うまく伝わっていないのです。子どもは伝えられている意味がわからないために、大きな声を出したり、うろうろしたりする。座り込んだり、大きな声で泣いてしまったりすることもあるかもしれません。その結果、「本当にわがままなんだから」というような評価をされてしまうこともあるのではないのでしょうか。

しかし、そこで使われている時間の長さを示す、「あともう少し」とか「あとちょっと」ということばの意味は、うまく伝わっているのでしょうか？もし、それらが理解できないとしたら、先の評価は正しいとは言えないのではないかと思います。伝えられていることがわからないことに原因があるからです。「あともう少し」、「あとちょっと」など、ここで取り上げたことばを「待つ」という言葉と組み合わせて使った場合、それは、使っている人がイメージしている待ち時間の長さを意味するものです。つまり、伝えられた方はそれを自分の尺度として周囲の状況と合わせて理解しなければならないということになります。これらのことばの意味はとても難しいといえるのではないかと思います。

これらのことばを使わないようにしようと言っているわけではありません。これらのことばを使ってもかまわないのですが、伝わっていないことがあるということを知っておかなければならないということです。

### 終わりがわかることの大切さ

今、私たちがしている活動には終わりがあり、その活動がどのようになったら終わるのかを理解しています。「これだけしたら終わり」、「この時間までしたら終わり」ということがわかっているということなのです。乗らなければならない電車の時間や、飛行機の時間などが活動の終わりの基準になっている場合もあれば、やり遂げなければならない書類の量が、終わりの基準になっていることもあるでしょう。まさしく、この原稿に追われている私は、終わりを理解しているし、久田さんからの電話で何とか終わらさなければと思っているのです。つまり、「いつまでするのか」、「どれだけするのか」という時間や量などの情報が終わりを示しているということなのです。

もし、終わりがわからないとどのようなことになるのでしょうか？そのような場合、終わりが納得できるように、周囲の人に尋ねるなどしてその情報を得るようにするのではないかと思います。しかし、それらの情報を得ることができなければどうなるのでしょうか？いつ終わるのかがわからないということなのです。いつまですればよいのかがわからないということなのです。終わりがわからないと誰でも混乱して、不安になってしまうのではないのでしょうか。誰にとっても、時間や量などの情報は終わりを知り、見通しをもつために重要なものなのです。次回は、終わりを知らせる方法を紹介します。今回はここまで。